

特集 北野の谷戸の自然環境

北野の谷戸周辺の鳥類

堀井 達夫

(トトロのふるさと財団 調査委員会)

はじめに

所沢市のゴミ最終処分場の候補地から免れたここ、北野の谷戸にはどんな鳥がどのくらい棲んでいるのか、そして自然生態系の頂点に立つとされる猛禽類ははたして棲んでいるのか、調査した。

調査方法

調査範囲を環境条件の違いから「北野の谷戸」と「トトロの森」の二つに分けて調べた(図1)。

調査はルートセンサスとし、時速約1.5km～2kmで歩きながら記録幅は特に定めずに出現する鳥の全種全個体数、および上空を飛翔する鳥の種と個体数を重複カウントしないように注意しながら記録した。時間帯は原則午前中としたが、午後に行った時もあった。

調査期間は2008年2月から2009年1月までの一年間で、「北野の谷戸」が39回、「トトロの森」が38回である。オオタカの繁殖状態を観るため、2月の観察が「北野の谷戸」が13回、「トトロの森」が14回と多かった。その他の月は1回から5回である。

調査参加者数は各個人の都合の良い時とした為、1名～5名だった。

鳥の種毎の優占度と出現頻度をそれぞれ以下の式で算出した。

$$\text{優占度(\%)} = \frac{\text{その種の数}}{\text{全種の数}} \times 100$$

$$\text{出現頻度(\%)} = \frac{\text{その種の出現した日数}}{\text{総調査日数}} \times 100$$

結果と考察

記録鳥種

記録された鳥類の種数は、「北野の谷戸」が35種(表1)、「トトロの森」が37種(表2)

(外来種のコジュケイとガビチョウを除く)とあまり差がなかった。両方の観察コースで見られた鳥類は31種だった。オナガ、トラツグミ、ヒバリ、ベニマシコ、ホトトギス、ムクドリは「北野の谷戸」でのみ見られた。ミソサザイ、フクロウ、ヒガラ、ノスリ、キセキレイ、カルガモ、オオルリ、イカルは「トトロの森」でのみ見られた。

優占度の大きい順を見ると、

「北野の谷戸」: ヒヨドリ>スズメ>ハシブトガラス>メジロ>シジュウカラ (図2)

「トトロの森」: ヒヨドリ>シジュウカラ>メジロ>スズメ>コゲラ (図3)

比較して見ると「北野の谷戸」は街中を好む鳥が占めているし、「トトロの森」は低山を好む鳥が占めている。ヒヨドリが両方の1位というのは、この鳥の順応性の良さが現れている。

猛禽類について

オオタカ: 「北野の谷戸」では、観察回数39回のほぼ半数19回観察されている。鳴き声のみの時もあるが、飛翔したり樹に止まっている姿も観察された。特に2月～3月の営巣期に出現頻度が、62%と高い確率で観察された(図4)。幼鳥も観察しているので、近くで繁殖しているものと思われる。「トトロの森」では出現頻度16%と少なかった。

フクロウ:「トトロの森」で鳴き声を聞いた(2008.2.25)が、姿は確認されていない事とこの後の観察が無い事から、通過だったと思われる。

まとめと所感

一年間観察した結果、鳥の種数が各35種、37種と環境の良さの割には少ない様に思われる。これは、この付近を散歩している人、中でも犬連れの人が多いことと関係していること

と、繁殖期(4月~7月)の観察回数が少なかったことが考えられる。ただ、オオタカの生息が確認されたことは、これからの湿地復元作業の時に何らかの考慮が必要と思うし、これからも観察を続けて見守ることが必要であろう。

調査参加者 (敬称略、アイウエオ順)

大塚隆廣; 菊一敦子; 深澤遊; 船木菊美; 宮崎豊; 山田弘司

図1 調査コース地図

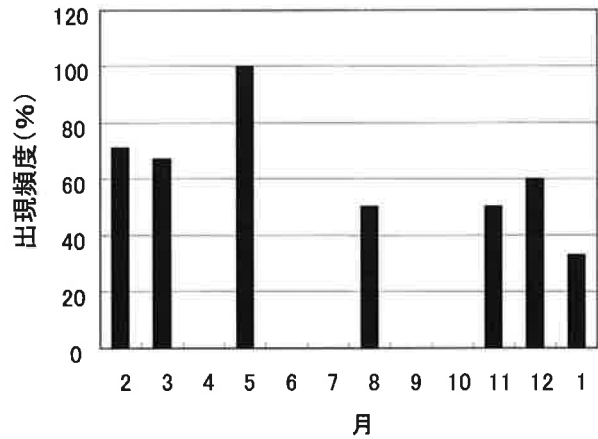
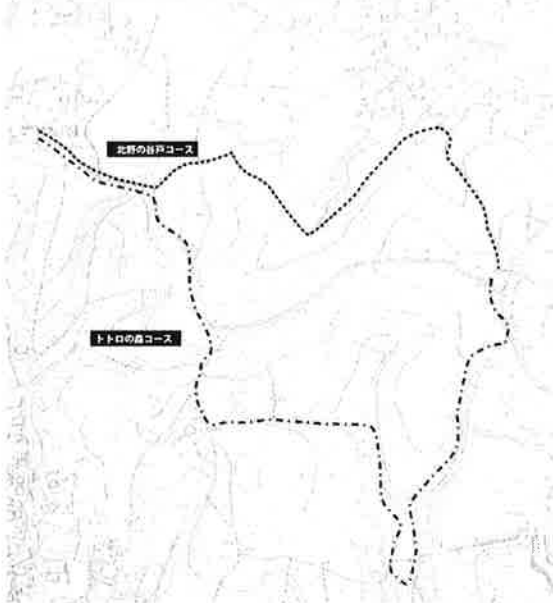


図4 北野の谷戸で観察されたオオタカの出現頻度 (%)

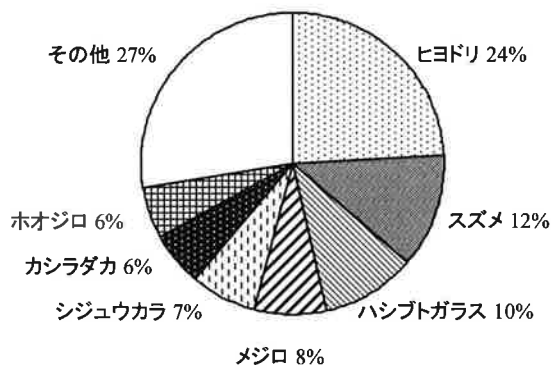


図2 北野の谷戸で観察された鳥類の優占度

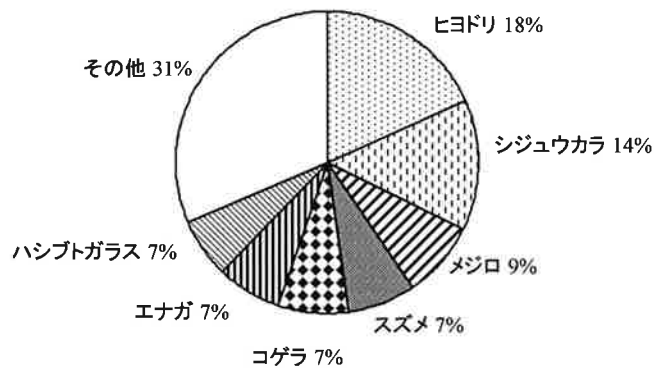


図3 トトロの森で観察された鳥類の優占度

